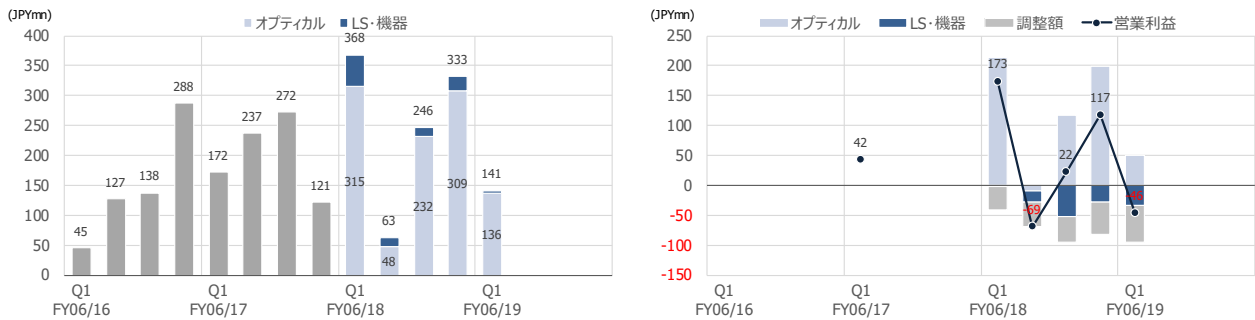




## 2019年6月期第1四半期決算（2018年11月13日発表）

- ▷ Q1：オプティカル事業はFY06/18から期ずれの米LCLS・独BESSY向け売上を計上、台湾TPS向け等海外向けが業績牽引
  - ▶ 計画比：通期予想は変更なし。FY06/18同様に下期偏重の見通し。Q1は当初から売上を大きく見込まず
- ▷ LS機器開発：新規事業分野開拓に引き続き注力し、機器開発事業における受託生産への販売構成シフトを進める
- ▷ トピックス：2018年10月2日、海外半導体製造装置メーカーから光学素子の試作開発を受注。第3の事業への期待高まる
- ▷ セグメント変更：細胞培養センターに係る費用が、LS機器開発事業から調整額に変更（本レポートでは過去遡及せず）

### 四半期業績推移（左：売上高、右：営業利益）



出所：会社資料よりSR作成

季節性：オプティカル事業のミラー完全受注生産で、製造工程は製品毎に異なり、受注から出荷まで概ね1年かかる。売上計上は検収基準であるため、売上の計上時期が四半期で平準化せず、ある四半期に偏る傾向がある。但し、特定四半期への集中ではなく、FY06/17はQ2及びQ3、FY06/18はQ1/Q4に集中、FY06/19はQ3/Q4に集中する見通し

### 業績概要

2019年6月期（FY06/19）第1四半期（Q1）の業績は、売上高141百万円（前年比61.7%減、227百万円減）、営業損失46百万円（219百万円減）となった。減収減益ではあるが、上記囲みに示す通りに四半期業績は参考にし難い。2019年6月期業績は期初計画から下期偏重と述べていたが、同社によるとQ1は当初から売上を大きく見込んでおらず、主に納品に向けての製造活動に注力したとしている。

なお、トピックスとしては、2018年10月2日に、海外半導体製造装置メーカーから光学素子の試作開発を受注したことがあげられる。同社では売上100億円規模の事業を多数擁立すべく取り組んでいるが、第3の事業の候補として半導体関連をあげている。今後の状況に注目したい。以下、セグメント別の概要を示す

### オプティカル事業

オプティカル事業 (百万円)	FY06/17				FY06/18				FY06/19				増減											
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	期初会予	FY06/18	FY06/19	Q1								
売上高	-	-	-	-	315	48	232	309	136	-	-	-	-	188	225	278	481	705	904	1,200	+198	+300	-178	
YoY	-	-	-	-	-	-	-	-	-56.7%	-	-	-	-	7.8%	19.8%	23.4%	73.1%	46.6%	28.1%	32.8%	-	-	-	
営業利益	-	-	-	-	215	-9	118	199	49	-	-	-	-	-	-	-	244	386	522	-	-	-	+137	-165
YoY	-	-	-	-	-	-	-	-	-77.1%	-	-	-	-	-	-	-	-	58.1%	35.4%	-	-	-	-	-
利益率	-	-	-	-	68.1%	-	50.8%	64.3%	36.1%	-	-	-	-	-	-	-	50.7%	54.7%	57.8%	-	-	-	+3.1pp	-32.1pp
償却費	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	45	60	49	-	-	-	-	-
償却前営業利益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	289	445	571	-	-	-	-	-
YoY	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	54.0%	28.2%	-	-	-	-	-
利益率	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60.1%	63.1%	63.2%	-	-	-	-	-
有形無形固定資産増加	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	72	82	-	-	-	-	-	-
資産	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	301	326	515	-	-	-	-	-

出所：会社資料よりSR作成

オプティカル事業は、輸送業者の配送ミスや通関遅延による製品の長期留め置きにより2018年6月期の計画未達要因となっていた案件が、2019年6月期Q1に想定通り売上計上に至った。なお、Q1においては、米LCLS向け、独BESSY向け、台湾TPS向けなど海外向けが売上の中心を占めた。

FY06/18の状況（参考）

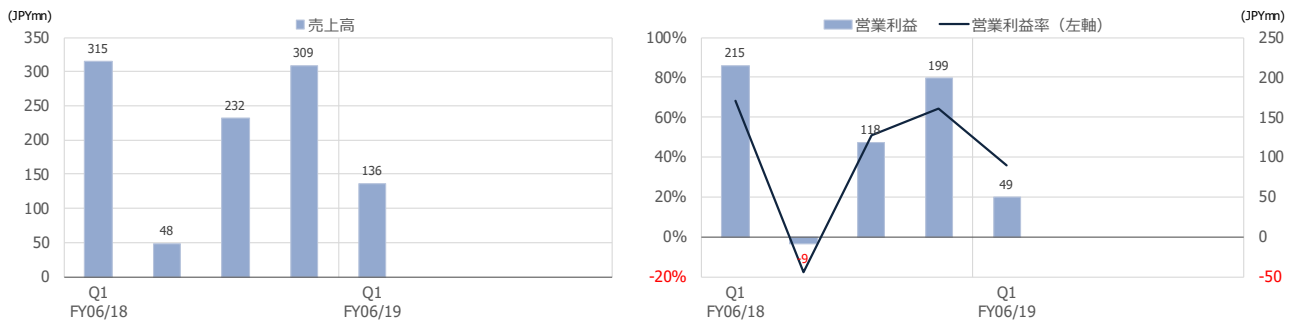
事業環境については、第4世代放射光施設の建設やアップグレード案件、XFEL（X線自由電子レーザー）施設の建設が世界各地で進むなど良好な状況を保持。同社は高精度ミラーの市場シェアが高く、且つ、新設案件では集光ミラーだけでなく、ビームラインの光学系で必要な光学素子をセットで受注可能なことも追風となっている。

売上は9割弱を海外が占めており、その海外向けが第4世代放射光やXFEL施設向けに順調に出荷を伸ばした。地域的には欧州・アジア・米国の放射光施設、とりわけドイツのXFELやアジア向けが伸長した模様だ。国内についても売上構成比は1割強と低いものの、こちらも第3世代放射光施設Spring-8向けやXFEL施設のSACLA向けが堅調で増収で着地している。

なお、2019年6月期の売上となるが、2018年6月に米国のXFEL施設であるLCLS-IIから高精度ミラー20枚を一括で受注（約3.2億円）したことを発表した。これは、同社の高精度ミラーが高く評価されていることに加えて、セット受注の戦略が奏功したことにも注目したい。

また、公募増資資金により現本社近隣に新社屋（加工棟・計測棟含む）の建設を決定、2019年6月の完成に向けて順調に進んでいる模様だ。加工棟の床面積は現状の5倍となるが、設備については段階的な導入を計画する。2019年6月の完成時には2018年6月期の約2倍の生産能力となる見通しである。ただ、生産能力が逼迫するなかで、新社屋建設を待たずに空きスペースを確保して生産設備の導入も進めており、2018年9月時点では2019年6月期分の生産は賄えるとしている。

## 業績



出所：会社資料よりSR作成

## LS機器開発事業

LS・機器開発事業 (百万円)	FY06/17				FY06/18				FY06/19				増減			
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	期初会予	FY06/18	FY06/19	Q1
売上高	-	-	-	-	53	14	15	24	5	-	-	-	200	+10	+100	-48
YoY	-	-	-	-	-	-	-	-	-91.3%	-	-	-	88.3%	-	-	-
営業利益	-	-	-	-	-1	-19	-52	-28	-33	-	-	-	-	-40	-	-32
YoY	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
利益率	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
償却費	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
償却前営業利益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
YoY	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
利益率	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有形無形固定資産増加	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
資産	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

出所：会社資料よりSR作成

LS機器開発事業のQ1売上は5百万円（前年比48百万円減）だが、オプティカル事業同様に当初から売上を大きく見込んでいなかったとしている。同事業は、CELLFLOATシステムを用いた汎用型機器から機器開発部門における受託生産品に販売構成のシフトを図っており、同部門では納品に向けての製造活動を行ってきたとしている。また、新規事業分野の開拓にも注力したとしており、SR社ではその成果に期待している。

## セグメント基準変更

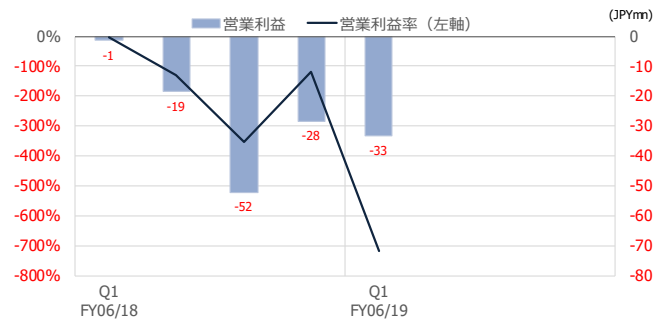
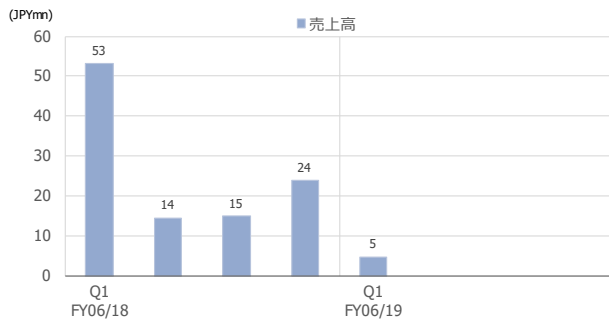
また、細胞培養センターに関する費用が、Q1から調整額に含まれることとなった。これを考慮した前Q1の営業損益は3百万円の利益であった。なお、本レポートの図表・文章では過去遡及を行っていない。

### FY06/18の状況（参考）

LS機器開発事業は、期初に期待していたCELLFLOATシステムを用いた汎用型機器の販売不調に終わり、計画（売上200百万円）は大幅な未達に終わった。これは、同社独自開発の細胞培養方法であるCELLFLOAT技術（円形のベッセルを回転させ細胞に重力を打ち消す培養液の流れを作り浮遊させた状態で培養）が、従来のディッシュ（シャーレ）やフラスコを用いる旧態依然として培養方法と異なることもあって、ユーザによる評価・条件出しに時間がかかる等、新技術の浸透には時間を要しているため。

同社では、代理店との事前マーケティングや展示会等での反応や引き合いは多数あったとしており、今後は大阪大学等の著名研究者と組んで学会で発表することで、認知度を向上させていく方針である。

業績



出所：会社資料よりSR作成

このリサーチメモは、掲載企業の[最新版レポート](#)にも掲載されています。

株式会社シェアードリサーチは今までにない画期的な形で日本企業の基本データや分析レポートのプラットフォーム提供を目指しています。さらに、徹底した分析のもとに顧客企業のレポートを掲載し随時更新しています。

### ディスクレーム

本レポートは、情報提供のみを目的としております。投資に関する意見や判断を提供するものでも、投資の勧誘や推奨を意図したものではありません。SR Inc.は、本レポートに記載されたデータの信憑性や解釈については、明示された場合と黙示の場合の両方につき、一切の保証を行わないものとします。SR Inc.は本レポートの使用により発生した損害について一切の責任を負いません。

本レポートの著作権、ならびに本レポートとその他Shared Researchレポートの派生品の作成および利用についての権利は、SR Inc.に帰属します。本レポートは、個人目的の使用においては複製および修正が許されていますが、配布・転送その他の利用は本レポートの著作権侵害に該当し、固く禁じられています。SR Inc.の役員および従業員は、SR Inc.の調査レポートで対象としている企業の発行する有価証券に関して何らかの取引を行っており、または将来行う可能性があります。そのため、SR Inc.の役員および従業員は、該当企業に対し、本レポートの客観性に影響を与える利害を有する可能性があることにご留意ください。

### 金融商品取引法に基づく表示

本レポートの対象となる企業への投資または同企業が発行する有価証券への投資についての判断につながる意見が本レポートに含まれている場合、その意見は、同企業からSR Inc.への対価の支払と引き換えに盛り込まれたものであるか、同企業とSR Inc.の間に存在する当該対価の受け取りについての約束に基づいたものです。

### 連絡先

株式会社シェアードリサーチ / Shared Research Inc.  
東京都文京区千駄木3-31-12  
HP: <https://sharedresearch.jp>  
TEL : (03)5834-8787  
Email: [info@sharedresearch.jp](mailto:info@sharedresearch.jp)